

文学部 英文学科

Study



University
of Victoria



Abroad



Program

CONTENTS

英文学科スタディ・アブロード・プログラムについて	1
出願選考について	1
SA プログラムの単位認定について	2
出発までのスケジュール	3
University College Dublin	4
Fontbonne University	7
University of Victoria	9
SA プログラム参加体験記	11
SA プログラムのサポート体制について	17
英文 SA 単位読み替えに関するガイドライン	18

スタディ・アブロード (SA) プログラム

英文学科のみなさん、在学中に英語圏に留学しませんか。

密度の高い英語の授業と異文化体験によって、

世界に通用するコミュニケーション力と適応力が身につきます。

英文学科には4つのSAプログラムがありますが、目的はそれぞれ異なります。

自分に合ったプログラムを選んで出願してください。

(1) 夏期 SA プログラム (University College Dublin)

アイルランド共和国の首都ダブリンの名門大学 University College Dublin (UCD) での、3週間の語学研修プログラムです。英語圏で生活し、他国からの留学生と机を並べて勉強することによって、英語力を集中的に身につけ、英語文化への理解を深め、帰国後の勉学意欲を高めることが目的です。

(2) 秋学期 SA プログラム (University College Dublin)

夏期 SA プログラムと同じ UCD での 12 週間か 22 週間程の語学研修プログラムです。長期にわたって英語圏で生活し勉強することによって、さらなる英語力アップをめざします。また、ホームステイで現地の家族と交流することを通して、コミュニケーション能力を高め、異文化理解を深めることも、大切な目的です。

(3) 秋学期 SA プログラム (Fontbonne University)

アメリカ合衆国ミズーリ州セントルイスにあるフォントボン大学で 16 週間か 24 週間程、正規の学生として、英語だけでなく、さまざまな分野の専門科目を学びます。アメリカ人学生と一緒に専門科目を学んだり、現地の人々や他国からの留学生と交流したりすることにより、英語力だけでなく専門的知識を身につけ、同時に異文化理解を深め、コミュニケーション能力を高めることを目指します。自国の文化への興味と理解を深め、国際的な視野を持つきっかけにすることも、目的の一つです。

(4) 秋学期 SA プログラム (University of Victoria)

カナダにある名門総合大学、ヴィクトリア大学での 12 週間の語学研修プログラムです。優れた教育施設で、カナダの豊かな文化と自然に触れながら英語を学習するこ

とで、語学力を向上させるとともに、帰国後の英語と英語文化の学習への意欲を高めることが目的です。また、ホームステイで現地の家族と交流することを通して、コミュニケーション能力を高め、異文化理解を深めます。

● 出願資格 ●

- 英文学科に在籍し、所定の審査を通過した学生
- 心身ともに健康で、海外での生活に順応できる者
- SA 出発までに実施される説明会やガイダンス、帰国後の報告会などに参加できる者

● 選考方法 ●

夏期 SA プログラム (UCD) と、秋学期 SA プログラム (UCD、フォントボン、ヴィクトリア) とでは、選考方法が異なります。

① 夏期 SA プログラム (UCD)

応募者が募集人数を超えなければ、原則として、書類だけで選考します。

② 秋学期 SA プログラム (UCD、フォントボン、ヴィクトリア)

応募人数に関わらず、両方とも書類選考と面接試験をおこないます。書類選考では大学での成績や英語力を中心に、面接試験ではコミュニケーション能力、勉学意欲、志望動機などを中心に、長期の留学に適しているかどうかを判断します。

※出願に際しては、コースにより出願資格や選抜方法が変更になることがありますので、詳しくは秋に実施される SA 説明会に参加してください。

※選考後に参加をキャンセルした場合、キャンセル料がかかる場合があります。

単位認定

英文学科が実施する SA プログラムは 3 カ国 4 コースからなります。

いずれも、現地プログラムで所定の評価を得て、

帰国後に実施される面接や報告会などに参加することにより、

本学の卒業所要単位として認められます。

※詳細は「英文 SA 単位読み替えに関するガイドライン」にて確認してください。

●University College Dublin (UCD)

2つのプログラム（夏期・秋学期）は、いずれもユニヴァーシティ・カレッジ・ダブリン(UCD)の語学研修機関である UCD Applied Language Centre の English Language Courses のプログラムを受講します。

<夏期 SA プログラム>

8月に約3週間のコースとして開講される Summer Program に参加します。帰国後、所定の手続きや審査を経て、英文学科「選択必修 B」に配置されている「海外英語演習」4単位が認められます。参加者は必ず春学期の履修登録期間内に、「海外英語演習」を履修登録する必要があります。

<秋学期 SA プログラム>

約12週間か22週間のコースを受講します。語学力向上のための授業が中心です。そのほか、社会や文化などに関する科目も用意されています。

帰国後、各自が現地で履修してきた科目を、文学部教授会で審議のうえ、認められた場合は、同系統の専門科目「SA 認定科目(A・B・C)」または ILAC 科目「English 3-II」に読み替えて卒業所要単位となります。認定単位数の上限は22単位です。

※コース内容は毎年変更されます。

●Fontbonne University

約4ヵ月間あるいは約7ヵ月間の期間を選択します。フォントボン大学では、正規課程の授業と Intensive English Program(通称 ESL コースと呼ばれている英語集中授業)を履修することができます。

正規課程の開講科目は、文化、ファッション、メディア、ジェンダー、スポーツ、心理学など、幅広いジャンルにわたっています。現地スタッフのアドバイスを受け、自分の希望と英語力を考慮し科目履修を決めていきます。帰国後、フォントボン大学での修得単位を文学部教授会で審議のうえ、認められた場合は、同系統の専門科目「SA 認定科目(A・B・C)」または ILAC 科目「English 3-II」に読み替えて卒業所要単位となります。認定単位数の上限は22単位です。

●University of Victoria

約12週間のコースを受講します。英語力向上を目指したカリキュラムで、自由時間の文化体験活動等も充実しています。

帰国後、ヴィクトリア大学で履修してきた科目を、文学部教授会で審議のうえ、認められた場合は、同系統の専門科目「SA 認定科目(A・B・C)」または ILAC 科目「English 3-II」に読み替えて卒業所要単位となります。認定単位数の上限は22単位です。

スケジュール

選考年度

10～11月 SA説明会

10～11月 出願期間

12～1月 選考および結果発表

実施年度

3～5月 ビザ・渡航説明会

事前指導

7～8月 危機管理ガイダンス・
直前ミーティングほか

8月 出発

(※夏期 SA に参加希望の1年生は4月に募集・
出願・選考)

参加決定後～SA出発までの準備

① パスポートの取得（説明会で指示）

参加決定後、パスポートは各自で取得します（取得費用は各自の負担）。すでにパスポートを持っていても、SA期間前や期間中に有効期限が切れる場合は、更新手続きが必要です。

② SA先大学入学願書等必要書類の作成・提出（選考年度の2月以降）

SA先大学への入学願書を記入してSA担当に提出します。その他SA先によって必要な書類がありますので順次、準備を進めていきます。

③ ビザ・渡航説明会（実施年度の3月～5月）

SA参加にあたって学生ビザの取得が必要となるため、ビザ取得に必要な書類の説明をするガイダンスです。各種証明書や書類などを各自で準備する必要があります。

④ 先輩との交流会（実施年度の3月～6月）

昨年度SAに参加した学生から、SA先大学の様子や、現地での具体的な生活状況や授業の様子などを聞くことができます。

⑤ 危機管理ガイダンス（実施年度の7月頃）

留学中に思わぬアクシデントに見舞われた場合、どのように対処すべきかについて、海外旅行保険の使い方も含め詳しい説明をおこないます。

⑥ 英文残高証明書（実施年度の4月頃から）

各国の入国管理局の指示により、米国の留学ビザ取得の際には、金融機関が発行する本人名義の英文の残高証明書が必要となります（4月の現地への入学申込書提出の際にも必要）。これは留学中の支払能力を証明するもので、2018年度は300万円以上が必要となりました（証明書発行後の預金移動は制限されません）。詳しくはSA説明会やガイダンスで説明しますが、余裕をもった資金準備をお願いします。

⑦ SA費用の支払い（実施年度の7月頃）

各プログラムのSA費用と奨学金はそれぞれ6、7、9ページに今年度概算を記載してあります。参加費用は為替レートの変動により、大きく変わることがありますので、余裕を持った資金準備をお願いします。7月頃、保証人宛への書類送付をもって最終的な金額確定とさせていただきます。奨学金は所定の申請後にお振込、もしくは費用と相殺します。

⑧ 直前ミーティング

出発の約2週間前におこなわれるガイダンスで、当日の集合場所を含め、SA出発に向けた最終案内をします。

University College Dublin

基本情報



【所在地】アイルランド ダブリン州ベルフィールド

【受入機関】UCD Applied Language Centre

【対象】夏 期：英文学科の1年生以上

秋学期：英文学科の2年生以上（応募は1年生以上）

【参加人数】夏 期：25名以内 秋学期：10名以内

【留学予定期間】夏 期：8月上旬～8月下旬（約3週間）

秋学期：①9月上旬～11月下旬（約12週間）

②9月上旬～3月中旬（授業は約22週間）

（留学期間に変更になる場合があります。）

【宿泊施設】大学内の寮またはホームステイ

●大学概要●

1854年に創設されたUCDは、アイルランドを代表する大学で、国際交流や留学生教育に豊富な経験を持っています。この優れた教育施設で、さまざまな国籍の学生と一緒に英語とアイルランド文化を学びます。UCDは、ダブリンの中心部からバスで15分ほどの静かな環境にあります。交通の便はよく、治安もとてもよい地域です。



●生活環境●

リフィー川の河口にあるアイルランド共和国の首都ダブリンは、豊かな自然と長い歴史を兼ね備えた美しい都市です。多くの文学者を輩出したことでも著名なダブリンの市内には、『ガリヴァー旅行記』の作者ジョナサン・スウィフトゆかりの聖パトリック大聖堂があります。また電車で30分も移動すれば、ジェームズ・ジョイスの小説『ユリシーズ』の舞台となったマーテロ・タワーも見学できます。さらに足をのばせば、初期キリスト教文化を伝えるグレンダロッホの教会群や、5000年以上前の巨大古墳ニューグレンジにも行けます。



【夏期 SA プログラム】

●授業の内容と特色●

授業は3週間おこなわれます。はじめにプレースメントテストを受けた後に、クラス分けがおこなわれます。1クラスの人数は14名ほどで、UCDの語学センター(Applied Language Centre)に所属する教員が授業を担当します。月曜日から金曜日まで、午前9時から午後1時までの4時間が教室での学習時間です。初めの2時間が教科書を使用した総合的な英語学習、次の2時間はアイルランドの歴史や文化(文学、経済、社会、映画、音楽など)の学習にあてられます。午後には名所めぐりやアイリッシュ・ダンスなどの文化プログラムがあります。

【時間割例】(途中に適宜休憩が入ります)

1限・2限 9:00-11:00	英語総合学習(4技能)
3限・4限 11:00-13:00	アイルランドの歴史、文化等
午後	【ソーシャルプログラム】James Joyce Tower Museum 訪問等

※コース内容は変更されることがあります。

●宿泊施設●

参加学生はUCDのキャンパス内の学生寮、またはホームステイを選択できます。寮は一人部屋で、トイレ、シャワー、キッチン、リビングが共有となり、自炊です。キャンパスからは市内行きのバスが出ており、ダウンタウンにすぐ行くことができます。

●費用について●

下記の費用は2018年度概算です。現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。

●2018年度実績●(ホームステイの場合)

航空運賃(空港施設利用料など含む)	185,600円
海外旅行総合保険料(全員加入)	6,870円
現地費用(授業料、登録料、宿泊費、送迎費など)※1	200,917円
(1ユーロ=130.04円で換算(1,545ユーロ))	
費用合計	393,387円
文学部奨学金※2	60,000円
参加者負担費用	333,387円

※1 その他の費用について

食費: ホームステイの場合、上記料金に食事代(平日2食、週末3食)が含まれます。寮の場合は、自炊、学食など別途、食費が必要です。

交通費: ホームステイの場合、通学バス代(約5千円程度)が別途かかることがあります。

その他: テキスト代や小遣いなどが別途必要です。

※2 奨学金について

JASSO(日本学生支援機構)奨学金8万円、あるいは法政大学からの奨学金5万円分程度を予定していますが、毎年参加者の人数により変動します。申請、支給方法については、別途ガイダンスでお知らせします。

【秋学期 SA プログラム】

●授業の内容と特色●

授業は12週間か22週間おこなわれます。はじめにプレースメントテストを受けた後に、クラス分けがおこなわれます。1クラスの人数は14名ほどで、UCDの語学センター（Applied Language Centre）に所属する教員が授業を担当します。月曜日から金曜日まで、午前または午後からの4時間が教室での学習時間です。リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング、文法、エッセイの書き方、プレゼンテーションと英語漬けになります。さらに、週に2日午後の時間に、IELTS対策講座があります。帰国前には全員IELTSを受験します。

【時間割例】

1限・2限 9:00-11:00	EAS (総合的な英語学習・4技能)
3限・4限 11:00-13:00	Academic Skills
午後 14:00-16:00	IELTS PREPARATION

※コース内容は変更されることがあります。

●宿泊施設●

参加学生はUCDのキャンパス近くにホームステイします。

●費用について●

下記の費用は2018年度概算です。現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。また、SA期間中の法政大学の学費はこのSA費用とは別に必要となりますので、注意してください。

●2018年度実績（12週間）●

航空運賃（空港施設利用料など含む）	175,190円
海外旅行総合保険料（全員加入）	28,130円
現地費用（授業料、登録料、宿泊費、送迎費など）※1	1,025,833円
（1ユーロ＝131.03円で換算 7,829ユーロ）	
費用合計	1,229,153円
奨学金※2	240,000円

参加者負担費用 989,153円

（22週間の場合には参加者負担総額130万円程）

※1 その他の費用について

食費：上記料金に食事代（平日2食、週末3食）が含まれます。

交通費：通学バス代（約5千円程度）が別途かかることがあります。

その他：テキスト代や小遣いなどが別途必要です。

※2 奨学金について

JASSO（日本学生支援機構）奨学金はSA期間中につき、毎月8万円、あるいは法政大学からの奨学金は月5万円分程度の金額（一括納入）を予定していますが、毎年参加者の人数により変動します。申請、支給方法については、別途ガイダンスでお知らせします。

Fontbonne University

基本情報



- 【所在地】 アメリカ合衆国 ミズーリ州セントルイス
- 【受入機関】 International Affairs, Fontbonne University
- 【対象】 英文学科の2年生以上（応募は1年生以上）
- 【参加人数】 8名以内
- 【留学予定期間】 ①8月中旬～12月中旬（約4ヵ月間）
②8月中旬～3月中旬（約7ヵ月間）
（留学期間は変更になる場合があります。）

【宿泊施設】 大学内の寮

●大学概要●

フォントボン大学は、男女共学のカトリック系4年生大学で、学生数は約2,800人、教員は414人であり、学生対教員の比率は7対1と少人数で学びやすい環境です。

●授業の内容と特色●

フォントボン大学では英語のレベルにより、履修できる学部正規科目の科目数が異なります。

■正規科目3～4科目を受講する場合：TOEFL iBT 61点、TOEFL 500点、TOEIC 650点、IELTS 5、もしくは英検準1級以上程度の英語の能力を有する者

■ESLコースと正規科目1科目を受講する場合：TOEFL iBT 46点、TOEFL 450点、TOEIC 500点、もしくは英検2級程度の英語の能力を有する者

【正規授業の一例】

英米文学や言語学の科目に加え、College Writing Skills, Introduction to Western Civilization, Women and Gender Studies, Argumentation and Debate, Mass Media, Interpersonal Communication, Public Speaking 等から選択できます。

【時間割の一例】 **正規科目**を4科目、ESLコースを2科目履修したある学生の時間割

	月	火	水	木	金
9:00-10:45		Public Speaking		Public Speaking	
10:45-12:15	Introduction to Sports Management	ESL Reading	Introduction to Sports Management	ESL Reading	
12:30-13:45	ESL Writing Skills	Advanced Speaking	ESL Writing Skills	Advanced Speaking	ESL Writing Skills
14:00-15:15		Media, Technology, and Culture		Media, Technology, and Culture	

●生活環境●

大学のキャンパスは、高級住宅地やワシントン大学などに近い、閑静なたたずまいの中にあります。徒歩圏内には若者たちでにぎわうショッピング通りやスーパーマーケット、カフェなどがあります。

●宿泊施設●

参加学生は全員フォントボン大学のキャンパス内の学生寮（2人部屋）に滞在します。寮には自動販売機、電子レンジ、レクリエーションルーム、コインランドリー、24時間使用可能なコンピュータラウンジなどが備わっています。シャワーはフロア毎の共同です。キャンパスは校舎外も含めてワイヤレス・インターネット環境です。週に14回程度の食事付で、学内には2カ所の食堂があります。

●費用について●

下記の費用は2018年度概算です。現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。また、SA期間中の法政大学の学費はこのSA費用とは別に必要となりますので、注意してください。



●2018年度実績（7ヶ月間）●

航空運賃(空港施設利用料等含む)	305,620円
海外旅行総合保険料(全員加入)	51,810円
現地費用(授業料、送迎費用、アクティビティ費用など含む) ※1	2,121,497円

(1ドル = 110.87円で換算) 19,135ドル)

費用合計 2,478,927円

奨学金 ※2 480,000円

参加者負担費用 1,998,927円

(4ヶ月間の場合には参加者負担総額170万円程)

※1 その他の費用について

テキスト代や小遣いなどが別途必要です。

※2 奨学金について

JASSO(日本学生支援機構)奨学金はSA期間中につき、毎月8万円、あるいは法政大学からの奨学金は月5万円分程度の金額(一括納入)を予定していますが、毎年参加者の人数により変動します。申請、支給方法については、別途ガイダンスでお知らせします。



University of Victoria

基本情報



- 【所在地】カナダ ブリティッシュコロンビア州ヴィクトリア
- 【受入機関】English Language Centre, Division of Continuing Studies, University of Victoria
- 【対象】2年生以上（応募は1年生以上）
- 【参加人数】10名以内
- 【留学予定期間】9月上旬～12月中旬（約12週間）
- 【宿泊施設】ホームステイ

●大学概要●

世界的に知られている名門総合大学です。1903年に Victoria College として設立され、1963年に University of Victoria となりました。学生数は約2万人です。国際交流、留学生教育に関して豊富な経験を持つ優れた教育施設で、カナダの豊かな文化と自然に触れながら、英語と英語文化を学習します。ヴィクトリアはカナダのバンクーバーから飛行機で約30分の場所に位置しています。生活の便は良く、治安も良い場所です。

●生活環境●

カナダ本土から少し離れたバンクーバー島にあるヴィクトリアは、英国風の建物も多く、おもむきのある街並みが特徴です。年間を通して温暖な気候のため、ガーデニングも盛んで、ガーデンシティと呼ばれるほど美しく、観光の町でもあります。ダウンタウンにはショッピングセンターもあり、さらに周囲を海に囲まれているためホエールウォッチングも有名です。

●授業の内容と特色●

クラスは習熟度別に6段階に分かれ、授業は月曜から金曜まで一週間に30時間おこなわれます。少人数教育で、ヴィクトリア大学の語学センター（English Language Centre）に所属するイ

ンストラクターが、英語を母国語としない EFL（外国語としての英語）のプログラムを担当します。プログラムの後半にはプレゼンテーションをメインとした授業があり、自分の力で英語での発表を準備するノウハウを学ぶことができます。



●宿泊施設●

参加学生はヴィクトリアのキャンパス近くにホームステイします。

●費用について●

約 100 万円程度を予定しております。現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。

※1 その他の費用について

食費：ホームステイの場合、上記料金に食事代（平日・週末ともに3食）が含まれます。

交通費：ホームステイの場合、上記料金に通学バス代が含まれます。

その他：テキスト代や小遣いなどが別途必要です。

※2 奨学金について

JASSO（日本学生支援機構）奨学金 8 万円，あるいは法政大学からの奨学金 5 万円分程度を予定していますが、毎年参加者の人数により変動します。申請、支給方法については、別途ガイダンスでお知らせします。

UC ダブリン大学・夏期 SA プログラム体験記①

挑戦したい

私が SA に参加した理由は、「挑戦」でした。今まで留学したことがなかったので、英語での生活や英語で英語の勉強をすることはどんなものかを知りたいと思っていました。

現地ではホームステイをしていました。中国とスペインからの留学生も一緒だったので、一緒にでかけたり、話をしたりして楽しく過ごせました。ホストファミリーはみんな優しく、不安なことはないかと常に気にかけてくれていました。ときには英語の発音や単語なども教えてくれて、ホストファミリーとの会話が英会話の上達につながったと思います。

一日の流れとしては、平日は朝 9 時から 13 時まで授業に参加し、午後はソーシャルプログラムに参加するか、自分たちでシティセンターに遊びに行くかのどちらかをしていました。基本的には夜ご飯の時間くらいまでには帰って、夕食後は毎回出される課題をやっていました。学校では、毎朝 9 時から 2 時限授業があり、午後はソーシャルプログラムという自由参加のアイランドに関わるコンテンツが用意されていました。授業は日本でやるような文法や教科書を扱う授業とスキルを上げるためにディスカッションをしたり、アイランドの文学作品を読んだりする授業がありました。少人数だったので、いろんな人と話すことや実際に英語の指示通り動いてみる課題などがあり、楽しく勉強できました。ソーシャルプログラムでは様々な博物館や美術館、史跡などにでかけました。特に、GAA というサッカーやハーリングというアイランド独自のスポーツが行われるスタジアムは印象的でした。

SA プログラムに参加して、英語を話すことへの意識が変わったと感じています。日本ではあまり英語を話す機会がなく、漠然と「自分は英語が話せない」と感じていました。現地に行ってから、英語を話さなければならない状況に置かれ、簡単な単語を使いながら会話をしていました。はじめは、戸惑うことや単語がすぐに出てこないこともありましたが、間違えながらも会話が成立していくことが増えていくと、「自分でも英語で

2018 年度 UC ダブリン夏期
岡西 涼加

話すことができる」と思えてきました。3 週間という短い間のなかで、会話への少しの自信を得られたと思います。同時に、知らない単語や表現ともたくさん出会い、もっと勉強したいというこれからの英語学習のモチベーションを得ることができました。

大学生活 4 年間は短いようであったという間です。もし留学に興味がある、英語の話せる環境に行ってみたいそう思っている人がいれば、ぜひ SA プログラムを有効活用してみてください。



英語がどこまで通じるか

私が SA に参加した大きな理由は、自身の英語力の向上でした。3 週間と短い期間であることは自覚していましたが、高校・大学で培ってきた英語力がどれほど現地で通じるのかを試してみたいという気持ちで SA に参加しました。

私はホームステイを選択しましたが、アイルランドの文化交流という観点においてはとても有意義なものだったと思います。というのも、ホストファミリーは私にアイルランドの歴史やスポーツ、教育などについて分かりやすく教えてくれたためです。そのどれもが私には興味深く、またホストファミリーが同様に日本についても尋ねてくれたので、両文化を比較して話すことができました。ホストファミリーの英語は、私が日本で学んだ発音とは異なり、リスニングをするのが難しいと感じることが多々あり、自身のリスニング能力が欠如していることを実感しました。また、“bar”のような簡単な単語でも発音によって通じないことがよくあり、日本ではあまり発音について意識することはありませんが、現地に来て強く意識するようになりました。このようにして、ホームステイでは英語とアイルランドの文化を学ぶことができました。

授業は 2 限まであり、1 限は英文法、2 限はアイルランドの文化や風習についての授業でした。特に印象的だったのは、どちらの授業もほかの留学生と話す時間が多いものだったことです。例えば英文法の授業では、文法に関する問題を解いた後に、なぜその答えなのかを他の国から来た留学生のパートナーと相談する必要があります。もちろん英語で説明しなければならないので、とても苦労した覚えがあります。ですがその分、相手を納得させるために文法を更に理解しようと思ったし、話し合った結果正解した時はとても嬉しかったです。

2018 年度 UC ダブリン夏期

深田 未来

平日の午前は授業だったため、午後は自由時間で観光を楽しむことができました。滞在している間は毎日 UCD の語学学校の方で用意していただいたプログラムがあり、それに参加することも可能ですが、興味がなければ自分自身で行きたいところに行くこともできました。休日は 1 日中自由時間だったため、SA のメンバーで世界遺産を見に行くツアーに応募して参加したり、買い物をしたりして楽しみました。

自分が何を学びたいのか、何をしたいのかが軸となっていると、自分の行動に統一性が出て、更に実りある SA にすることができると思います。うまくいかないことや、悩むことも現地でしか体験できないことなので、それも楽しんで頑張ってください。



成長を実感

2018 年度 UC ダブリン秋学期

小林 美紀

今回の SA の参加動機は、実践的な英語力を伸ばしたいと思ったことはもちろん、大学生の今だからこそ挑戦できることに積極的に取り組んでみようと思ったからです。また、留年や休学の心配なく留学することができるので、参加しようと思いました。

平日は月曜日から金曜日まで午前中に 2 コマ授業があります。教科書を使いながら、環境問題や経済、権力などテーマに沿った内容について自分の意見を発信する授業と、プレゼンテーションやエッセイを通して自分の英語力を伸ばす授業です。また火曜日と木曜日の午後には IELTS の試験対策の授業がありました。この授業では、実際の問題を解いて先生から問題の解説や試験を受けるにあたっての戦略を学びました。どの授業も取り扱う内容はアカデミックで、自分の意見を英語で伝えることが少し難しかったのですが、語彙力も増え、自ら自分の意見を発信する大切さを知り、英語を話すことに対して抵抗がなくなりました。授業内でクラスメイトと意見を交わすことで多角的に物事を考える力や自分の意見を積極的に発信する力が向上したと思います。

午後に授業がない日は、友達と買い物に行ったり映画を見に行ったりしました。夜ご飯はホストファミリーが 18 時くらいには準備してくれていたのので、一緒にご飯を食べ、食後に今日の授業の様子を話したり、お互いの文化を紹介しあったりと話す機会がありました。ホストファミリーはすごくフレンドリーで優しかったです。プレゼンテーションの練習を見てもらったり、オススメの観光スポットを教えてもらったりと、私の留学生生活をたくさんサポートしてくれました。

休日は世界遺産などを訪れ、日本では体験できない迫力のある大自然に感動しました。海外旅行は 1 から自分たちで計画を立てまし

た。世界的に有名な建築物や美術館などを訪れ、文化だけでなくヨーロッパの歴史も学ぶことができました。自分たちで旅行を計画したり観光する場所を調べたり、最良の手段を探したりなど、この SA を通して計画性を身に付けられたのではないかと思います。

今回の SA に参加して、実践的な英語力を身につけられただけでなく、海外の文化や歴史をたくさん学ぶことができ貴重な経験ができたと思います。また、海外の文化に触れることで、日本がいかにか優れた国なのかを思い知らされました。次年度 SA プログラムに参加される方は学習面でも現地での生活面でもしっかりと目標を立てて、悔いのない留学生活を送ってほしいなと思います。



かけがえのない繋がり

2018 年度 UC ダブリン秋学期

末永 悠帆

高校生の時から留学をして語学を学ぶ事に興味があり、募集があった時にすぐに申し込もうと思いました。目的としては、もちろん語学力の向上もありましたが、重視していたのは海外で生活に順応してみることでした。結果として、ホームステイや語学学校への留学が含まれた SA プログラムを選びました。

ステイ先家族は父・母・息子の3人家族でした。家は、趣を感じる雰囲気です。アイルランドの暮らしを存分に体験することができました。家族とは他のステイ先に比べておそらくコミュニケーションが多く、個人的には最初ついて行くのに必死でしたが、今となってはしゃべる練習にもなる恵まれた環境だったなと感じています。

クラスは授業初日に受けるテストでレベル別に分けられました。1クラスの人数は6～10人程度、様々な国から集まった留学生が混在していました。授業の内容としては、午前中の1限に会話や文法、ノートテイキングなどを主としたものと、2限目にライティングやプレゼンテーション能力を鍛える授業が設けられていました。それとは別に火・木曜日の午後に IELTS の対策授業を受けていました。月・水曜日には実践的な英語力を学ぶ授業が任意性で受けることができました。少人数でいつも対応してくれたため、わからないことがあれば、すぐに質問ができる環境づくりがなされていました。

最初は初めての海外留学で不安も大きかったのですが、たくさんの人と出会って助け合い、支えられやり遂げることができました。4ヶ月弱と期間は短かったもののそこで得られた交流や繋がりにはかけがえのない貴重なものだなと感じ、それだけでも本当に参加してよかったなと思います。まだまだ勉強できる余地はあったと思うので機

会があるならば、また海外留学をしたいなと願っています。

SA で得られるものは語学力だけではなく、人とのつながりや新たな価値観など行ってみないとわからないことが沢山あります。1日1日を無駄にせず、積極的に自分から多くのことを吸収してほしいと思います。



最高の機会

中学三年次にアメリカとカナダに二週間の語学研修に行った時に、日本とアメリカの間の“当たり前の事”の違いを多く感じ、アメリカの生活、文化に興味を持ち、実際に生活してみてアメリカについて学びたいと思ったからです。

アメリカ人と二人一部屋の寮生活でした。キャンパスは大きくないため、先生、生徒の距離が近く、とても温かい大学です。授業は様々な国の人たちと英語のクラスを受けていました。文法、ライティング、リーディング、リスニング、スピーキングなどに加え、短い小説を読みそれに関連した事柄について話し合う授業などもありました。英語を英語で学ぶので分からないこともありましたが、本当に発言しやすい雰囲気だったため、簡単に質問できました。アメリカ人の先生と様々な国の生徒たちで、様々な事を話し合えるため大変楽しかったです。授業は一回 50 分または 75 分で、午前中に終わる日もあれば、午後にも授業がある日もありました。

平日は 9 時まで朝食を食べ、9 時から 12 時くらいまで授業を受けていました。昼食を友人と楽しくおしゃべりをしながら取り、午後は夕食まで授業を受けたり、課題をしたりしていました。5 時くらいから 6 時半くらいまで再び友人と楽しく食事をし、その後はジムに行き、一日を終えていました。休日は 11 時くらいにランチを食べ、友人と何かのイベントに参加したりお買い物に行ったり課題をしたりしていました。寮なので友人の部屋で夜に映画を見たりもしていました。

留学先のセントルイスには観光地はあまりありませんでしたが、冬休みに日本人とベトナム人の友人とフロリダ州のオーランドとマイアミに、母と姉とニューヨークに行きました。どちらも飛行機で数時間の所で、とても行きやすかったです。他にシカゴなども近いので行きやすいと思います。

2018 年度フォントボン秋学期
深津 実央

約 6 ヶ月半留学し、アメリカにいる事が観光ではなく生活だったので、旅行に行くだけでは知れない事、感じられない事がたくさんあり、興味、関心のあることが増えました。また、自分で自分のことを全て管理したり、失敗を恐れず話しかける力がつきました。そして何よりアメリカだけでなく様々な国の素敵な友達がたくさんでき、毎日充実して幸せでした。心からこの SA プログラムに参加して良かったと思います。

新しいことにたくさん触れられる最高の機会だと思います。今英語が苦手な人も得意な人も自分に合った授業を受けられると思います。不安でも現地の人はみんな本当に優しく助けてくれるので、少しでも興味があれば挑戦してみてください。



世界中の人との出会い

海外に以前から興味があり大学生のうちに一度は留学してみたいという思いと、英語力を向上させたいという思いがあり、私はこのSA プログラムに参加することを決めました。アメリカで過ごしたこの7ヶ月間でたくさんの経験ができ、学べたことも多く私にとって、とても貴重な体験になりました。

私が現地でとっていたESLの授業では、サウジアラビア、ブラジル、メキシコ、イタリア、中国などその他にもたくさんの世界中の国の学生と一緒に英語を学ぶことができ、またそれぞれの国や文化を学ぶ事もできとても良い経験になりました。そして色々な国の人と一つの言語、英語でコミュニケーションを取り、繋がることのできるのはとても楽しいと感じました。留学中には世界中の色々な人に出会い、色々な国や文化があれば違った考え方もたくさんあり、面白いと感じ、世界は自分が思っている以上に広いと感じ、この留学で自分の世界観が広がりました。

学校外の活動では留学生を中心としたイベントなどがあり、セントルイスの観光やアイススケートなど様々な場所に出かけました。寮生活ではアメリカ人のルームメイトをもち、とても優しく、毎日色々な話をするのがとても楽しかったです。ルームメイトが友達を部屋に招く事もありいつも私のことを紹介してくれたので友達の輪を広げる事も出来ました。休みの日に自宅に招いてもらったり一緒に出かけたりする事もあり仲をより深めることができました。

初めは自分の英語力に自信がなく恥ずかしがってしまい何も行動できずにいましたが、生活していくうちにどんなに下手でも自分から積極的に行動していくことが大切だと感じました。何事も少し勇気を出して自分から行動すること、それが私が留学中に大きく成長できたことの一つだと思います。

2018年度フォントボン秋学期
近藤 明日美

初めてのアメリカでの生活は緊張と不安でいっぱい慣れないことばかりで戸惑う事や苦勞する事もたくさんありましたが、それも今では良い経験であったと感じます。そしてそんな時に周りの方々に多くの場面で助けられました。先生方から周りの友達まで優しくいつもフレンドリーで温かく、困った時には助けてくれる、そんな素敵な方々にたくさん出会えました。世界中のたくさんの素敵な友達に出会えたことはこのSAでの一番の思い出です。様々な人との出会いも含め、日本では出来ないような経験がたくさんできたこの留学体験はとても大きくかけがえないものです。



スタディ・アブロード・プログラムのサポート体制

●海外旅行総合保険●

SA プログラムの参加学生は、法政大学が指定する海外旅行総合保険に加入していただきます。現地でのケガや病気の時、あらかじめ指定された病院（キャッシュレス指定病院）で診察を受ければ、その場で自己負担することなく治療が受けられます。指定病院以外でも、領収書と診断書があれば、帰国後に一定の範囲内で保険金を受け取ることができます。歯科治療に関しては保険対象外で、その他にも保険対象範囲は定められています。詳しくは出発前の各種ガイダンスでお知らせします。

●24 時間対応の電話アシスタンスサービス●

① 病気やケガの対応

現地で病気やケガの際には、現地大学スタッフや、寮、ホームステイの担当者に、病院を紹介してもらうことになります。しかし、外出先や遠出をしている際に、思わぬ事故や病気、ケガに見舞われる可能性もあります。そのようなときに、直接フリーダイヤルに電話すれば、近くの病院を探してくれたり、適切なアドバイスを受けることができます。

② トラブルの対応

留学中にトラブルに見舞われたり悩み事などがある場合、通常は現地大学の担当スタッフが相談にのります。日本語で直接相談する必要がある場合は、SA ポータルサイトを利用して法政大学（学科の SA 担当教員、SA 担当および文学部事務担当職員）に連絡をとることができ、緊急の際には 24 時間対応の電話アシスタンスサービスを利用できる体制をとっています。

●SA ポータルサイト●

SA 留学期間中に、日本にいる法政大学の教職員に質問や相談がある場合、SA 担当に直接電話をかけることもできますが、国際電話代や、時差、窓口時間の関係上、難しいケースがありま

す。そのようなときは、SA ポータルサイトにアクセスして、問い合わせをしてください。出発前に SA 参加者全員に ID とパスワードを配布します。

なお、留学期間中、このポータルサイトを使用して、月例報告（秋学期 SA 参加者のみ）、旅行届を提出することが、SA 参加者の義務になっています。

●グローバル教育センターSA 担当●

SA 担当では、主に渡航関係、寮やホームステイなど現地での生活に関する事柄を中心に SA に参加する学生をサポートします。それ以外の SA 全般にかかわることについても相談にのりますので、SA に関して、質問や相談があるときは、気軽においでください。

<問い合わせ>

〒102-8160

東京都千代田区富士見 2-17-1

（大内山校舎 2 階グローバル教育センター内）

Tel: 03-3264-9408 Fax: 03-3264-9256

E-mail: sapro@hosei.ac.jp

●文学部担当●

文学部担当では、事前指導、奨学金申請、単位認定手続き、出発後の英文学科生への連絡内容伝達（ゼミや卒論関係）、課題連絡・提出や帰国後報告会の案内・実施等を行います。何か困ったことや気になることがありましたら、気軽に文学部窓口あるいは大学付与のメールにてご相談ください。

<問い合わせ>

Tel: 03-3264-9324

窓口時間

月～金 9:00～17:00 (11:30～12:30 を除く)

土曜日 9:00～12:00

【UCD秋学期・フロントボン・ヴィクトリア参加者対象】

英文SA単位読み替えに関するガイドライン

SAで取得した単位は以下のガイドラインに則って教授会において決定される。

① 認定単位数

- 1) SAで取得した単位は、年度ごとに22単位まで法政大学文学部英文学科専門科目の単位、またはILAC科目「English 3-II」として認定されることがある。
- 2) 認定される単位数は、授業時間数に応じて、所定の計算式に基づいて認定される。
- 3) ただし、音楽や美術の実習などの実技科目の単位については、2)で規定された単位数とSA先大学の単位数の両方を考慮して単位数が認定される【原則として2)で規定される単位数の6割程度】。

② 科目系列

- 1) 原則として選択必修B群の「SA認定科目(B)」として認定される。
- 2) 取得した科目の内容によっては、8単位を上限として選択必修A群の「SA認定科目(A)」として認定されることがある。申請する場合は、選択必修A群に該当すると考える根拠がわかるよう、授業内容についての説明も含めること。
注) 特段の理由がない場合は4単位を上限とする。
- 3) 卒業論文に直接関連する科目として位置づけられている選択必修C群の「SA認定単位(C)」として認定されることはない。ただし、取得した科目が卒業論文に直接関連する科目であると指導教員が認定する場合にかぎって、選択必修C群として認定されることがある。
- 4) ILAC科目「English 3-II」も認定の対象となる。認定を希望する場合は、SA先で4技能(reading, writing, speaking, listening)が連動した英語科目の単位を取得すること。

③ 申請方法

- 1) 1st term履修決定のころ(10月頃)、文学部担当よりメールで送られる「単位認定申請書」にて申請する。シラバス、時間割もあわせて提出する。
- 2) 長期参加者は、2nd term履修決定のころ(2月頃)に2nd term分の「単位認定申請書」あるいは「授業報告書」(認定可能単位数をすでに1st termで達した方のみ)にて申請、提出する。

以上